

2009/04/12

## 主の復活の喜びを共にしながら

さいたま教区長  
司教 マルセリーノ 谷 大二

### 労働の本来の意味を取り戻そう

アメリカの金融危機を引き金に世界で経済、生活における不安が広がっています。派遣労働者の解雇などで日本人のみならず多くの移住者も苦しい立場に追い込まれています。利益追求だけを優先する市場原理主義の弱点、危うさがさらけ出されたのです。日本の法律、政策は移住者を人間として、兄弟姉妹として向けられてこなかったことを露呈しました。そのことに多くの人々が気づいたのではないのでしょうか。

この年末年始に、私からも社会司教委員会からもメッセージを出しました。命と人権に関わる問題として、仕事を奪われ、中には住むところさえ失った労働者や家族のために、教会として出来ることを話し合っ、実行に移してくださいとお願いしました。多くの教会では委員会などでこのことを議題として取り上げてくださり、さまざまな協力と支援が行われるようになりました。教会委員会ではこうした生活の問題を取り上げたことはこれまであまりなかったことです。そのことについて私もとてもうれしく思っています。苦しい時代の中にも、こうした神の恵みをいただいたことに感謝したいと思います。

モーセの十戒に「安息日を聖とせよ」(出エジプト 20:8)という戒めがあります。エジプトでファラオ(王)のもとで過酷な強制労働(1:11~14)、信教の自由の侵害(5:17)、労働搾取が行われていました。安息日は労働の効率を上げるためのものではありません。労働は利潤を上げるためのものでもなければ、搾取されるためのものでもありません。神の創造にかたどって、労働があり安息があります。労働を通して人間は神の創造に参与し、安息日に神に賛美をささげ感謝をささげます。「安息日を聖とせよ」という戒めは、神が搾取と抑圧の構造の中でおとしめられていた労働と安息を解放するものだったのです。

この経済不安、生活不安の時代に、私たちは時のしるしを読み取ることができます。経済優先の社会のなかで、神のかたどり(Imago Dei イマゴ・デイ)としての人間の尊厳を取り戻し、労働と安息の本来の意味をもう一度取り戻すことです。労働、そして移住労働者に関する日本の政策や法律にもこの神の教え、メッセージを届けることができると願っています。

### 日本カトリック神学院が誕生

さいたま教区では今年、藤田恵助祭が司祭に、そしてネルソン・セノ・カバシシ神学生が助祭に叙階されます。また、今年度はネルソン助祭も含めて七名の神学生が神学校で養成を受けます。また、三名の志願者が司祭職を目指して準備しています。神の民に与えられた神の大きな恵みに感謝します。

さて、これまで、日本には東京と福岡に二つの神学校がありました。今年からこの二つの神学校が合同し、「日本カトリック神学院」として出発することになりました。今年度は

四十八名がこの神学院で養成されます。将来の教会を担う神学生が一つのところで養成されることは喜ばしいことです。

しかし、この合同により、神学校に負担する教区の分担金は二百万円ほど増額されます。教区での養成費などを含めて二〇〇八年度には千八百万円でしたので、〇九年度には二千万円が養成費として必要になります。これらは「一粒の麦」会員の皆様の寄付、小教区からの「神学校費」、そして教区運用財産の利息などによってまかなわれています。〇八年度は皆様の協力によって「一粒の麦」は六百万円、「神学校費」は四百万円となりました。できれば、近いうちに「一粒の麦」と「神学校費」によって神学生養成費をまかなうことができると願っています。

「一粒の麦」の会員に一人でも多くの方になっていただきたいと思います。すでに会員になっておられる方々には、いろんな場で声をかけて会員を増やして下さるようお願いいたします。また、小教区でも「神学校費」の協力を呼びかけて下さるようお願いいたします。あわせて、神学生、志願者のためにお祈りをお願いいたします。

#### **さまざまな行事が行われます**

二月、茨城県西ブロックに常総教会が新設されました。三月には栃木県南ブロックの上三川教会の新聖堂が献堂されました。それぞれのブロックの協力、さいたま教区のすべての小教区のお祈りと協力に感謝いたします。

教区創立七十周年記念「ブロック対抗フットサル大会」(五月四日) カプチン会から寄せられた寄付金によって賞金が出ることになりました。また、宇都宮海星女子学園が会場を快く提供してくださいました。各ブロックでは、経済状況が厳しいなかでも大会に向けて準備してくださっています。応援団にも賞金がありますので、こぞって参加してください。楽しい大会になるでしょう。

「正義と平和協議会さいたま大会」(十月十日～十二日) 今年度は他教区で引き受けるところがなく、大宮教会と多く教会のみなさんの協力によって、さいたま教区で引き受けることになりました。実行委員会は「わかりやすい言葉で、だれでも参加できるものにと」準備を進めています。「おばさん、おじさんの正平協」というスローガンもありましたが、若者が参加しづらいという意見もあり、このスローガンは撤回されましたが、そのニュアンスで準備を進めています。青年たちもぜひ参加してください。分科会はいくつかの小教区で行われます。そこで共に食卓を囲み、共に学ぶ機会としていただくとうれしいです。

「教区大会」(十一月二十三日)は埼玉県北・東の二ブロック担当で、深谷で行われます。教区大会へのステップとして「聖書の旅」も企画されると聞いています。一九九二年から二年に一度開催される教区大会は神の民の一致、協力、交流のシンボリックな集いです。言葉の壁を乗り越え、できるだけ多くの方々の参加を呼びかけてください。

#### **主の復活の喜びを共にしながら！**

生活不安、経済不安のなかですが、こういう時こそ兄弟姉妹として神の声に耳を傾け、共に食卓を囲み、喜びと苦しみを共にしながら、希望をもって力強く歩んでいきましょう。